

### (1) 本年度のNIE活動の概要

昨年度は、社会的事象を「自分事」として考える手立てとして、以下の3点を重点とした。

- ① 具体的な資料（社会事象が「自分事」となるような資料）の提示
- ② 適切な学習問題（「自分事」として捉えることができる）の設定
- ③ 教師自身が興味関心を持ち、考えたいような社会事象を授業で扱うこと

NIE活動として①の視点に焦点をあてた実践を重ねた結果、新聞記事を教材化することで、生徒が事象を自分のこととして引き寄せようとする姿が見られた。2年目は、新聞記事を教材化していく上で必要となる視点を社会科授業の単元構想において具体化し、②・③に迫ろうと考え、視点を明確にした単元構想と教材化による実践授業を公開した。教材化の視点を明確にしたことで、単元や本時のねらいにそって、どのような記事をどのように取り上げるのかが見えてきた。教材化の視点が設けられることで、つける力と関連した本時の学習活動が位置付けられることが見えてきた。今後は他教科において、どのような教材化の視点が設けられるかの検討をすることなど、成果を手がかりにして、校内研究の幅を広げていくことが課題となった。

### (2) 本年度のNIE活動の取り組み状況（4月時点）

- ① 佐久市立野沢中学校（生徒数505名 普通学級15学級 特別支援学級2学級）

全校での取り組みとして、提供していただいた新聞記事を、担当教諭がスクラップして廊下に掲示するなどして、身近な環境に常に新聞が位置付くようにした。また、校長室前の閲覧台や図書館に新聞を置き、いつでも誰でも新聞を手にとることができるようにした。

- ② NIE研究授業 公開学級 1年4組（男子14名 女子18名 計32名）

公開学級では、新聞記事を朝の会や帰りの会で紹介することで、数多く新聞記事に触れる機会を設けた。家庭での購読経験が限られている生徒も多く、まずは関心の持ちやすい記事などを紹介するようにした。5割近くの生徒が自主的に新聞に目を通すことができるようになった。

- ③ 教員の活用状況

職員間で、信毎データベースへのアクセス方法を共有し、効率的な記事の検索ができるようにした。学級の時間や道徳の時間など、効果的に検索して、新聞記事を活用することができた。また、職員室や学年室に新聞を置くことで、職員自身が新聞に触れる機会を増やすことができた。こうしたことがきっかけとなり、教室に新聞を持ち込むようになった教員もいた。

### (3) NIE活動のねらい

- ① 全校研究テーマ

本校では、全校研究テーマを「生き生きと、自分の考えを深めていく生徒の育成」としている。生徒が生き生きと学習し、思考を深めていく過程において、生徒の側で起きる「事実との出会い」や「気づき」が特に重要になる。また、考えを深めていく過程では、教師による資料

や活動の提示、生徒相互がつながる話し合い場面の設定など、ねらいをもった支援が求められる。生徒が学習者として学ぶために、教師の役割を明確にした単元構想を大切にしていく。

## ② 社会科研究テーマ

### i 体験的な事実との出会いをする生徒

Y生はオセアニア州の多文化社会を想起し、南アメリカ州の民族構成の背景に「積極的に受け入れた」という前向きなイメージをもち始めた。その後、植民地政策による負の側面を知ったY生は、自己のイメージと現実とのギャップに戸惑った。自分の予想が、社会のあり方という事実によって覆った瞬間だった。「あー、いやだ」というつぶやきから、Y生にとっての驚きが伺える。このようなY生の驚きは、Y生の側で起きたことであり、Y生にとっての体験である。このように、事実に触れ、驚きや感動といった心揺さぶられるような出来事が生徒の側で起きていくことを、「生徒による体験的な事実との出会い」と捉えたい。

### ii 社会的な見方・考え方を働かせながら、社会的事象の意味を考えようとしていく生徒

予想が覆り、それまでの認識がゆさぶられた自身の事実との出会いによって、Y生は南アメリカ州の民族構成が形成された背景を、植民地支配という視点から捉えなおし、黒人や先住民の立場から考察することで、南アメリカ州の民族構成の「残酷」「差別」という歴史的な側面に気づくことができた。Y生は、南アメリカ州の民族構成について、新たな側面から考察していたと考えられる。このように、Y生は体験的な事実との出会いによって、地域という見方・考え方を働かせ、多面的・多角的に社会的事象の意味を考察した。

### iii 生徒にとっての社会科の学び

体験的に事実と出合うことで、社会的な見方・考え方を働かせながら、社会的事象の意味や意義を考え、社会科を学ぶ魅力を味わいながら、生徒が自身の資質・能力を育てていくことが期待できる。このような学習活動を支える教師の役割を明らかにしたいと考え、本校社会科の研究テーマを設定し、テーマ具現に向けた教師の役割として、確かな単元構想の視点を具体化することを目的にする。

### iv テーマ具現に向けた確かな単元構想

本研究では、生徒が共感的に学習できる単元を計画した。以下は単元構想の視点である。

ア…社会科のあり方から現代的諸課題に関する主題を把握することで、学習者としての役割と追究の動機をもつ。

イ…知っていることと知るべきことを整理する場面を設け、見通しをもつ。

ウ…獲得すべき知識を意識した追究をする場面を設け、主体的に問題解決をする。

エ…問題状況の当事者の立場を考察する場面を設け、多面的・多角的に考察したり、諸課題の解決に向け知識・技能を活用して共感的に構想・判断したりしようとする。

オ…小単元の学習成果（解決策）を吟味する場面を設け、自らの学習体験を客観的に把握できるようにする。

#### v 教師の役割と、新聞を活用する視点

本研究では、新聞を教育に活用する視点も踏まえて単元構想をする。したがって、上記単元構想の視点ア～オに関わり、素材とする新聞の内容を精査し、何をどのように扱うのかを明確にする。新聞を教材とする際の視点を設け、ねらいを明確にして新聞を教材化していく。

- 生徒にとっての驚きや感動といった、心が揺さぶられる事実が含まれているかどうか。
- 立場が示されているか、マイナスやプラスなど事象を明確に意味づけているかどうか。
- 現代的諸課題を含む内容であり、生徒が現代的諸課題を捉え、課題の解決に向けて選択・判断することができる十分な資料かどうか。

#### ③ NIE 実践を通して育てたい力

新聞記事には、現在進行形の社会における課題などが示されている。こうした記事を、単元の中に位置づけることで、生徒にとって驚きや感動を伴う、心揺さぶられる事実との出会いが経験できるのではないだろうか。こうした出会いを含む学習活動を経験する意義は大きい。学習の主体者として自律的に学習活動を展開していくことが期待できるからだ。

事実との出会いにより見出す意味や意義は、生徒によって異なる。捉え方の違いを知り、仲間の考え方に触れ、自らを問い直す契機ともなる。

さらに、生徒が新聞記事を通して現代的諸課題を捉えることが期待できる。「なぜこのような問題がみられるのか」と問いを立てて、社会のあり方を構造的に理解することや、「どうしたら解決できるのだろう」という問いを立てて、解決に向けて構想したり判断したりすることが期待できる。

このように、NIE 実践は、生徒の側での学習活動のきっかけとなる。生徒が学習主体として生き生きと学ぶ力を高めていくことを期待している。

#### (4) 全校での取り組み

上述したように、新聞掲示コーナーを設け、担当職員が記事を選定して掲示した。毎日新聞・読売新聞・朝日新聞・産経新聞・日本経済新聞・信濃毎日新聞の各紙から、記事を掲示した。図書館では、朝日新聞を年間通じて閲覧できるようにしている。また校長室前の新聞掲示台には、信濃毎日新聞を置き、生徒が自由に閲覧できるようにしている。今年度は、北京オリンピックやロシアによるウクライナへの軍事侵攻など、歴史的な出来事を伝える記事が多く、関心を向けている生徒が多かった。翌日の生活記録に、出来事に対する考えを記述する生徒がいた。また紹介された記事と関連する記事を家庭の新聞で見つけ、報告する生徒もいた。

#### (5) 公開授業などの活動内容

- ① 小単元名「世界の諸地域 アフリカ州～経済的自立をめざすアフリカ州の人々～」

#### ② 単元展開

学習活動	予想される生徒の反応	教師の支援
学習問題：アフリカ州の自然環境には、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか		

1 アフリカ州の自然環境を大観し、特色を考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 熱帯には熱帯林やサバナ、乾燥帯には砂漠が広がる。比較的標高が高い地域も広がっている。</li> </ul>	○赤道を基準として気候帯や地形を整理することで、自然環境を大観することができるようにする。
学習問題 生産者は、なぜ、カカオ豆がチョコレートになることを知らないのか		
2 輸出品目の割合から、経済について考察し、問題を把握する。 …視点ア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定の産物の輸出に頼る経済である。モノカルチャー経済が、どのような影響を与えているのだろうか。</li> </ul>	○カカオ豆生産者がチョコレートを知らない背景を考えると、モノカルチャー経済であることが理解できるようにする。
単元を貫く学習問題：アフリカ州の国々では、特定の産物に頼る経済が、地域にどのような影響を与えているのだろうか		
3 主題に対して、知っていることと知るべきことを整理し、追究の見通しをもつ。 …視点イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収入が不安定だから、水道や電気が十分に整備されていないだろう。</li> <li>・ 人々の生活の状況を確認したい。</li> </ul>	○モノカルチャー経済の不安定さを南アメリカ州の学習と関連付けることで、調べることができるようにする。
学習課題：アフリカ州では、社会全体でどのような課題を抱えているのだろうか？		
4 データから、地域の課題を概観し、社会的課題について理解する。 …視点ウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口増加に食料生産が追い付かず、貧困である。学校に行かず、働く子どもがいるだろう。</li> </ul>	○「このような社会には、どのような人々がいますか」と問い、次時の見通しをもつことができるようにする。
学習課題：貧困などの課題があるアフリカ州に、どのような存在の人々がいるだろうか		
5 児童労働の映像から、低賃金の労働を強いられる人たちがいることに気づき、経済的自立が課題となることが理解できる。 …視点ウ …視点エ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誰もが学校に行ける状況ではない。</li> <li>・ 特定の産物にたよる経済が児童労働の要因だ。私たちと、どのようなつながりがあるのだろうか。</li> </ul>	○児童労働の立場から考察している生徒の意識を捉え「人ごとではない児童労働」の見出しを提示することで、自らの生活や社会のあり方のつながりに着目できるようにする。
学習問題：アフリカ州の児童労働と、私たちには、どのような関わりがあるのだろうか		
6 新聞記事を読み、私たちのあり方を問い直す視点に気づき、どのようなことができるのかを考え始めることができる。【本時】 …視点エ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チョコレートの価格を気にしたことがない。安さを支える背景には児童労働がある。</li> <li>・ 一次産品を安く購入する私たち先進国との関係がある。何か行動をすべきだろう。</li> </ul>	○記事の「安さを過剰に求める消費者」という記述に着目させ、市販のチョコレートの価格を知った生徒に、「私たちの社会のどんなあり方が、コフィ君を生んでいるのか」と問うことで、私たちの消費と児童労働の関係に気づくことができるようにする。
学習課題：Wさんの経験や現在の取り組みを知り、社会全体や私たちにどのようなことができるのかを考えてみよう。		

<p>7 講師の話聞き、技術支援や、公正な取引による支援ができることを理解することができる。</p> <p>…視点ウ …視点エ</p>	<p>・Wさんは専門を生かし農業支援をした。現地の人自力で持続可能な農業ができるように支援することは大切だ。</p>	<p>○青年海外協力隊の方の話から分かったことを確認することで、様々な支援のあり方があることに気づき、具体的に構想・判断できるようにする。</p>
<p>学習課題：アフリカの人々の経済的自立に向けて、社会全体や私たちにどのようなことができるのかを発表し、追究してきたことの成果を確認しよう。</p>		
<p>8 Wさんに自分の構想を提案することを通して、本単元で学んだことの意義を振り返るようにする。</p> <p>…視点オ</p>	<p>・フェアトレードは、多くの人に知られていない。価格が高いことの意味をきちんと理解してもらおうと考えた。</p>	<p>○講師から持続可能な発展の意義や、フェアトレードを伝えていくことの意義を説明することで、人道支援の意義に触れられるようにする。</p>

### ③ 本時案

#### i 主眼

「人ごとではない児童労働」という新聞記事の見出しを知り、児童労働と私たちのつながりを考え始めた生徒が、新聞記事の内容を読み、市販されているミルクチョコレートの価格を予想することを通して、先進国の消費者である私たちのあり方を問い直す視点に気づき、アフリカ州の経済的自立に向けて関心をもつことができる。

#### ii 本時の学習材

##### 市販されているミルクチョコレートの価格を予想する活動

- ・アフリカ州の児童労働と自分たちとの関わりを考えている生徒は、私たちの消費のあり方を問題にしていこう。このような意識を捉え、本学習材を提示する。
- ・本学習材は、ミルクチョコレートの価格を予想する活動である。この活動を通して、チョコレートの価格を意識しない自分の姿と、記事の過剰に安さを求める意識という言葉とのつながりを実感することが期待できる。学習材に接した生徒は、わが国のチョコレートの価格は生産者の労働に見合う価格ではないことに気づき、アフリカ州の人々の立場が尊重されない貿易がわが国との間にあることを見出すだろう。そのような生徒が、アフリカ州の労働者の立場から児童労働を考察することで、先進国の消費者のあり方を問い直すだろう。このように、安いチョコレートが当たり前であるわが国が、不公正な貿易を生んでいることに出会い、アフリカ州の経済的自立について、関心を寄せることが期待できる。

#### iii 学習の展開

過程	学 習 活 動	予想される子どもの動き	時 間	指 導 と 評 価
課題把握	<p>学習問題：アフリカ州の児童労働と、私たちには、どのような関わりがあるのか</p> <p>1 前時の活動を振り返る。</p>	<p>・私たちの「安ければよい」という考え方が児童労働を生む1つの背景になっていると思う。</p>		<p>・記事の「過剰に安さを求める意識」という言葉に着目させ、「私たち自身に、安さを求める意識</p>

	学習課題 私たちの「安さを求める意識」について振り返ってみよう。	10	があるのだろうか」と問うことで、自分のあり様を考えられるようにする。
展 開	2 チョコレートの価格を予想する。	10	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">           学習材            チョコレートの価格を予想する活動         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「値段を意識しない」という意識を捉え、「値段を意識しないことを、アフリカの生産者はどう思うか」と問うことで、わが国の消費者意識を理解できるようにする。</li> <li>・「学習問題を考えよう」と促し、貿易の関係図を活用して記述させることで、安さを求める意識と不公正な貿易のあり方を考察できるようにする。</li> </ul>
	3 予想する活動を振り返る。	10	
	4 学習問題に戻り、私たちと児童労働のつながりについて考察する。	10	
終 末	5. Wさんの存在を知り、聞いてみたいことなどを整理する。	10	・行動してみたいという意識を捉え、Wさんの話を聞こうと促すことで、アフリカ州の経済的自立への関心が向けられるようにする。

## (6) 生徒の反応

### ① 安さが当たり前になっている自分のあり様に気づく Y 生

T: 記事を読んだ後、「私たちにも安さを求める意識はあるのか?」と問い、チョコレートを示す。

Y 生: 「ツルヤでみるね。いつものチョコだね」とつぶやく。

T: 「これ、いくら?」

Y 生: 周りの生徒に、「120 円、130 円はするよ。100 円はいくよ。」と言う。

T: 98 円であることを伝える。

Y 生: 「え、そんな安い?」と大声で反応し、「安いと思うけどな」と言う。

T: I 生が「あまり値段を意識したことがない」と言うのを受け、「自分もあまり意識しなかった人は?」と挙手を求める。

Y 生: 挙手する。(写真 1)



写真 1

記事を読んだ後、教師がチョコレートを提示すると、Y 生は、活発につぶやくなど関心を示した。予想よりも安かったことに「えー」と大声をあげ、「安い」と話す姿から、驚きをもって価格を知ることができたと思われる。教師の「普段値段を意識しない人」という問い掛けに、すぐに手をあげている姿からも、チョコレートの安さが当たり前になっている自身のあり様に

気づいたY生の意識が見て取れる。

② 問題状況における当事者の立場に立つことで、多面的・多角的に考察するY生

T: “先進国” “モノカルチャー経済の国々” “生産者” “児童労働をする子どもたち” “先進国の私たち” と関係図を板書し、「値段を気にしない私たちを、生産者はどう思うだろうか？」と問う。(写真2)



写真2

Y生: 「本当に対等な取引であるか？」とカードに記述する。

T: グループでの話し合い活動を促す。

Y生: 「対等な取引をすれば、利益が生まれて、技術をよくして、もっと利益を生み出せるはずなのに、日本とかの先進国が、そういうことを妨げている。怒り」と話す。(写真3)



写真3

U生: (同じグループ) うなずきながら聞いている。

U生: 「モノカルチャー経済の国は他にもあるから、生産者が取引価格をあげようとしても断られて、先進国は他の国に行っちゃうだけだよ」と話す。

I生 (同じグループ) 「生産者からしたらありえない話」

Y生: うなずきながら「そうだよなあ」と言う。

教師が関係図を用いて立場を整理し、生産者の視点からアフリカ諸国の立場に立って考察を促したことで、Y生は、不公正な貿易の中で経済的自立が実現しないアフリカ州の問題状況に気づいた。また「怒り」という言葉から、共感的に理解するY生の意識が見て取れる。Y生はグループ活動でU生やI生の考えに触れたり、チョコレートの価格を意識しない自身のあり方を客観視したりしながら、アフリカ州の問題状況と、先進国に生きる自分自身の関係を、多面的・多角的に考察したと考える。

③ アフリカ州における問題状況を分析し、構造的に理解を深めていくY生

T: 生産者の立場での話し合い場面を設ける。

Y生: 「価格を気にしない私たちを見た時に、本当に自分たちは先進国と対等な取引ができていのかどうかと。対等な取引ができたなら、少しずつ利益になり、技術ができて、カカオ豆以外の産業ができて、輸出できる。日本とか先進国がそれを妨げていると、怒りをもつんじゃないか」と発言する。

T: 「この取引が、アフリカの発展を妨げていると考えるだろうということだね」と確認する。

Y生: うなずく。

T: 「前回の授業の資料では、アフリカ州の人々の労働に見合う対価が支払われていないと書かれていました。」と確認し、関係図に記入する。

Y生: 「(支払われて) いない」とつぶやく。

K生: 「利益が少ないからといって子どもを働かせる生産者はいけないと思う」と話す。

M生: 「生産者の側にも言い分がある」と話す。

T：「どんな言い分があるだろう？」と問う。

K生：「利益をあげるため」と発言する。

T：「少しでも利益をあげるために、安く働かせられる子どもを使うしかない」と確認する。

Y生：「子どもを働かせて、少しでも利益を生み出すしかない」と発言する。

話し合う場面を設けたことで、Y生はモノカルチャー経済の国々における生産と貿易、そして経済的自立における問題を表現した。学習問題を考察する場面で、「児童労働と先進国の生活は関係している。でも、日本が仮に直したとしても、他の先進国が安く買うままだと変わらないから、世界全体の貿易に関するルールみたいなものをつくらないといけない。」と記述した。多面的・多角的に考察することで、自分と児童労働の関わりを構造的に分析して理解することができた。またY生は、自らの関わりを考察することを起点として、世界全体の貿易のあり方へと関心を広げた。自ら問題を見出し、考察を深める主体的な学習の様子が伺える。

## (7) 成果と課題

本研究では教材化の視点を構想し、記事を教材化して実践した。「人ごとではない児童労働」という見出しを自らに引き寄せて考察する場面で、単元を通して獲得した知識を、整理・活用しながら、アフリカ州における地域的特色を理解する生徒の姿が見られた。現代的諸課題を含む記事によって、生徒は今まで獲得した知識を総動員しながら、具体的に考察することが分かった。現代的諸課題は、新聞の得意とするところである。新聞記事を大いに活用し、単元に現代的諸課題を含む内容を位置付けることを継続したい。また、本時の記事には、児童労働の問題に取り組む“ひと”の存在が位置付けられていた。児童労働と自分の生活のつながりを理解した生徒は「何かできることはないか」と考え始めた。今後の自己や社会のあり方に関心を寄せる生徒の姿から、実社会に生きる人々の姿に触れることで、自ら学びに向かおうとする意欲を喚起することができるが見えてきた。

ただし、新聞記事を生かすためには、授業での教師の働きかけが求められる。チョコレートの価格を予想した活動を取り入れたことで、生徒は「あまり価格を意識しない」自身のあり様に気づき、「人ごとではない児童労働」という記事に書かれた社会的事象を具体的に考察していた。青年海外協力隊に赴いた人との出会いを設けたことで、“ひと”の存在を手がかりにして学ぼうとしていった。読む活動に加え、実感的側面を意識した教師の働きかけを、単元構想や本時案の中で具体化したい。

最後に、教育に新聞を生かすために大切な点をまとめたい。

- ① 記事ありきではなく、まずは生徒の姿から、ねらいを明確にして単元構想を行う。
- ② 教材化の視点を活用し、単元の中で適切な教材化のできる記事かどうかを検討する。
- ③ 生徒にとって感動を伴った学びとなるような、記事との出会いの場を構想する。

教師は、生徒に寄せる願いをもとに単元や授業を構想した上で、「これを生徒に」と考える記事を教材化したい。生徒は、学習活動を通して、記事が伝える価値ある事象に出合う。そこには、生徒ならではの気づきや発見、驚きや戸惑いなどの感動がある。新聞は、生徒が体験的に事実と出合うきっかけとなる。「なぜ、どうして」という問いを設けたり、「どうしたらよいか」と構想したり、「伝えてみよう」と働きかけたりと、単元の様々な場面で有効な活用が期待できる。そうした教材化の営みのよさを多くの先生方と共有していくことを課題としたい。